

仙台西多賀病院 地域医療連携室だより

vol.66

新年のご挨拶

院長 武田 篤



新年明けましておめでとうございます。

本年も宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック開始からちょうど5年が経過しました。この新型感染症は社会活動に甚大な被害を及ぼしましたが、徐々に弱毒化したこともあり漸くその社会全体に及ぼす悪影響が薄れつつ有る様に思われます。しかし医療機関は中々この5年間のダメージから抜け出せないでいるのが現状と思われます。物価高、人件費の上昇、医療費抑制政策を背景とする診療報酬制度の改定など厳しい経営環境の中で、引き続き当院の強みとする「障害」に対する医療を変わず提供し続けるべく万全の対策を取ってまいりたいと存じます。今年は医療を取り巻く環境が少しでも改善に向かうことを切に願っております。

当院の近況をお伝えします。脊椎手術に関しては内視鏡手術の割合が確実に増えて低侵襲化が進んでいます。機能的脳外科手術に関してもパーキンソン病や振戦に対する脳深部刺激療法その他、難治性疼痛に対する脊髄刺激術の件数も増えてまいりました。HALを用いたリハビリテーションについても件数が増加しており、全国有数の実施件数を誇る施設となっております。パーキンソン病を中心とする神経難病の診療件数も増加を続けております。当院パーキンソン病センターは外来・入院を合わせて年間1千例を超えるパーキンソン病患者さんの診療を行う全国有数の規模となりました。また認知症疾患医療センターはすっかり地域に定着し新患外来は1～2ヶ月待ちの状態が続いています。アルツハイマー病に対する新規治療である抗アミロイド抗体療法の導入症例数も確実に増えつつあります。当院の基本理念である「良い医療を安全に、心をこめて」をモットーに今年も診療を継続して参りたいと存じます。引き続き変わらぬご支援を頂ければ幸いです。

～仙台西多賀病院の理念～ 「良い医療を安全に、心をこめて」



整形外科医長
矢部 裕

□専門分野
脊椎外科
スポーツ
整形外科一般

□認定医・専門医等
日本専門医機構整形外科専門医
日本専門医機構脊椎脊髄外科専門医
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本医師会認定産業医
日本スポーツ協会公認スポーツドクター

当院の脊椎外科治療について

平素は当院の地域連携にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

令和5年度の当院整形外科の初診患者数は1761人で、うち1484人が紹介患者で紹介率は84%でした。令和5年度の当院の脊椎疾患の手術件数は581件で主な手術は腰部脊柱管狭窄症262件、腰椎椎間板ヘルニア135件、頰椎症性脊髄症69件でした。ご紹介いただいた医療機関の先生方に心から感謝申し上げます。当院では手術による症状の改善・進行予防のみならず、手術後のリハビリによる身体機能の改善に取り組んでおります。健康寿命の延伸が社会的な課題となる中、要支援・要介護の原因として最も多い運動器疾患の治療・予防は今後ますます重要となります。手術が必要な疾患のみならず腰椎圧迫骨折などの日常生活に支障をきたす疾患では、積極的に入院でのリハビリを行っておりますのでご紹介いただければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願いたします。

難治性疼痛への治療法である脊髄電気刺激療法（SCS）のご紹介

当科では各種ニューロモデュレーション治療を提供しており、その一環として、難治性疼痛、特に神経障害性疼痛の患者さんに対し、脊髄電気刺激療法（Spinal cord stimulation; SCS）を行っています。神経障害性疼痛は、なんらかの神経の損傷や機能異常によって生じる非生理的な痛みで、灼熱感や刺すような痛み、しびれなどが特徴であり、代表例として脊椎脊髄術後や脊髄損傷後、脳卒中後、末梢神経障害、複合性局所疼痛症候群（CRPS）などによる疼痛が挙げられます。これらの痛みは従来の薬物療法や神経ブロックが効きにくいことが多く、生活の質を著しく低下させます。

SCSは脊髄硬膜外腔に刺激リードを留置し微弱な電気刺激を与えることで疼痛の緩和を図る治療法です。低侵襲手術により装置を植え込み、治療前には試験装着期間を設けるため、効果確かめたうえでの本格導入が可能です。神経障害性疼痛に苦しむ患者さんの治療選択肢として、SCSをご検討ください。詳しい情報や紹介のご相談はお気軽にお問い合わせください。



脳神経外科医長
永松 謙一

□専門分野
機能的脳神経外科
脳神経外科 一般

□認定医・専門医等
日本脳神経外科学会専門医
日本定位・機能神経外科学会技術認定医
日本神経内視鏡学会技術認定医



リウマチ科医長
田村 則男

□専門分野

関節外科
外傷
リウマチ
整形外科一般

□認定医・専門医等

日本リウマチ学会リウマチ専門医
日本整形外科学会整形外科専門医
日本リウマチ財団リウマチ登録医

当院のリウマチ科及び関節外科のご紹介

当院では脊椎疾患に加えて関節リウマチの薬物療法および手術も実施しています。

リウマチが疑われる患者さんについては問診、診察のうえ血清学的検査、レントゲン検査、場合によりCT、MRI、骨シンチグラムを用いて診断を行います。関節リウマチと診断されますと患者さんの合併症や内服、注射等の要望に合わせて治療薬を選択し加療しています。標準的治療薬であるメトトレキサートをはじめ生物学的製剤およびJAK（ヤスキナーゼ）阻害薬を使用し関節炎を抑え痛みのない生活が送れるよう努めています。すでに破壊が生じて機能障害をきたした関節に対しては人工関節置換術を、手指の腱断裂を生じた際には再建術を実施しています。

また、より身近な疾患であるバネ指（狭窄性腱鞘炎）や、手根管症候群、肘部管症候群の治療も行っています。

皆様のお役に立てますと幸いです。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



脳神経内科医長
大泉 英樹

□専門分野

神経変性疾患
脳神経内科一般

□認定医・専門医等

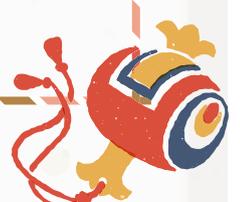
日本神経学会認定神経内科専門医
日本神経学会指導医
日本認知症学会指導専門医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医

認知症早期から進行抑制効果が期待される薬剤が発売になりました

仙台西多賀病院認知症疾患医療センター長の 大泉英樹 と申します。

本日は、世界初のアルツハイマー型認知症の薬剤発売に伴い、当院への紹介のご案内させていただきます。

当院は2015年9月1日に仙台市の指定を受けて、認知症疾患医療センター（地域型）を開設しています。開設時の2015年9月1日から2024年8月31日まで合計約1300人の新規受診患者さんに対して、初期診断や治療方針を決定し、患者さんやご家族の方へ医療や生活支援を行ってまいりました。これまで認知症の治療薬は症状を軽減する対症療法が上市されていましたが、病気を根本から治療する疾患修飾療法は存在していませんでした。2023年12月から脳内に蓄積したアミロイドタンパク質凝集体を除去するレカナマブという世界初のアルツハイマー型認知症の疾患修飾療法が発売されました。2024年11月には同様の機序のドナマブが発売されました。これらの治療薬はアミロイドタンパク質凝集体を取り除くことにより、アルツハイマー型認知症を背景に持つ軽度認知機能障害や早期認知症において進行抑制効果の可能性が示唆されている薬剤です。認知症治療においてパラダイムシフトが起きつつあり、物忘れを認めた患者さんは治療時期を逸さないように是非お早めにご紹介いただけますと幸いです。



軽度認知機能障害 (MCI) のサインとは？

当院では、軽度認知機能障害や早期認知症に対する新しい治療が始まっています。

もの忘れ外来にご紹介いただく患者さんは「日常生活に支障が出てくる状態」の方が多く、軽度～中等度の認知症と診断を受けることがほとんどですが、その一つ前の段階で受診いただくことで、治療も含めた早期の対策が可能になることもあります。

例えば、

- ・ 予約の日時を間違える
- ・ 診察室で同じことを繰り返し質問する
- ・ 会計時の支払いに戸惑う
- ・ 服薬管理がうまくできていない



等、地域の医療機関の皆様が「おや？」と思うことがございましたら、「年齢のせいだろう」と流さずに、当院もの忘れ外来の早めの受診をお勧めください。頭健康診断のつもりで、とご紹介いただいても構いません。受診に関するお問い合わせは当院認知症疾患医療センター（022-245-2122・直通）までお願いします。

認知症疾患医療センター市民公開講座を開催しました

2024年11月4日（月・祝）、東京エレクトロンホール宮城にて認知症疾患医療センター主催の市民公開講座を開催しました。今回は映画「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえり、お母さん～」を上映後、監督である信友直子さんにご講演をいただきました。この作品は87歳で認知症になったお母さん、95歳で初めて家事、介護をすることになったお父さん、その二人の生活に娘である信友直子監督が自らカメラを向けたドキュメンタリー映画で、前作「ぼけますから、よろしくお願ひします。」に続き、認知症介護の実情が赤裸々に記録されています。

高齢のご夫婦同士の介護は「老々介護」とマイナスな意味合いで使われがちですが、信友家の老々介護の行く末には、たくさんの温かい愛情が感じられ、自分の家族観、介護観を見つめ直す機会にもなりました。

講演では最近のお父さん（104歳）のご様子を写真や動画でご紹介いただき、映画のシーンの解説や作品への想い等を時間いっぱいにお話しいただきました。

参加者からのアンケートでは「自分の家族の介護について考えさせられました」「亡くなった両親を思い出して涙が止まりませんでした」等、中には用紙の裏にまでたくさん感想を書いていただき、反響の大きさを感じました。



来年以降も認知症疾患に関する情報発信・普及啓発のために地域の皆様向けの市民公開講座を企画していきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

医療社会事業専門員
榊原 愛

当院における障害者虐待防止対策

療育指導室長 佐々木京太（虐待防止担当者）

当院では、「虐待防止責任者」である院長を中心に、「障害者虐待防止委員会」および「虐待防止マネージャー連絡会議」など、組織的な虐待防止対策を行っています。特に、虐待防止マネージャー連絡会議については、各部門の職場長クラスをマネージャーに任命し、以下の4チームに編成し、より重層的・多面的な対策を施しています。

- ①研修チーム：虐待防止研修の企画運営
- ②ラウンドチーム：各病棟を定期的にラウンドし、支援が適切かどうかチェックする
- ③身体拘束適正化チーム：各病棟を定期的にラウンドし、やむを得ず身体拘束を行う場合の手続き等が適切かどうかをチェックする
- ④事例検討チーム：擬似事例を用いたカンファレンスを企画運営

今般の診療報酬改定においても「身体拘束最小化にかかる体制整備」が盛り込まれており、虐待防止や身体拘束について注目度が高まっています。ご不明な点があれば当院までお問い合わせください。

個人活動絵画制作

主任保育士 青山 玲子

<大友さんより>

筋ジストロフィーで病院生活しながら絵の創作活動をしています。一つの作品を作るのに3ヶ月程度かかります。5月に竹駒神社の参集殿にキツネを題材にした絵を飾らせてもらいました。これからもいい作品ができるように精進していきたいと思います。

<支援者より>

大友さんは、唇の動きで反応するスイッチマウスを使用して、ベッド上でパソコンを操作し、毎日少しずつ絵を描いていらっしゃいます。昨年までは毎年二科展へ出展し、入選や準入選されていました。私の個人的な感想になりますが、大友さんの絵から力強さ、優しさ、深みを感じ魅了されています。文化祭ではこれまでの作品をポストカードにして展示・販売も行い沢山の方にご購入いただきました。またハロウィンやクリスマスにはテイストの違うかわいらしいイラストを描いて、病院行事のポスターや絵葉書作成にご協力いただく事もあります。ご本人はこれらの作品をたくさんの方に見て頂きたいと希望されているようです。当院整形外来にも大友さんの作品を展示してありますので皆さんも是非ご覧ください。



区 分			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
整形外科	せぼね	新患	古泉 豊	川原 央	小城 繁明	山屋 誠司	国分 正一
		再来	矢部 裕	小城 繁明			
	関節	新患	国分 正一	国分 正一	川原 央	古泉 豊	国分 正一
		再来	山屋 誠司	両角 直樹			
	せぼね・関節		須田 英明	須田 英明	須田 英明	須田 英明	
	側弯症						両角 直樹
	脳神経内科	新患	馬場 徹	高橋 俊明	武田 篤	吉岡 勝	金原 禎子
田中 洋康				大泉 英樹			長谷川隆文
再来		武田 篤	吉岡 勝	武田 篤	大泉 英樹	田中 洋康	
				菊池 昭夫			高橋 俊明
馬場 徹							
循環器科				勝田 祐子			
リウマチ内科				星 陽介			
小児科			小林 康子 (成長発達)	小林 康子	午前 小林 康子 (乳児健診・予防注射) 午後 小林 康子	小林 康子	
脳神経外科 ※2			永松 謙一				永松 謙一
泌尿器科					東北大学医師 (第2・4週)	武弓 俊一	
遺伝カウンセリング ※3				高橋 俊明			
もの忘れ外来 ※4			大泉 英樹	武田 篤	馬場 徹	長谷川隆文 佐久間博明	金原 禎子
禁煙外来			当番、診療休止 ※詳細はホームページをご参照ください。				
歯科 ※5				福重 拓也			佐藤 敦

外来担当表

令和6年12月1日 現在 ※1 脊柱側弯症の新患患者様のご紹介は、側弯症外来日(金曜)にお願い致します。
 ※2 脳神経外科は主にパーキンソン病に関連した診療を行っています。
 ※3 遺伝子カウンセリング外来は神経筋疾患を中心に行っています。
 ※4 もの忘れ外来は診療情報提供書が必須で完全予約制です。
 ※5 歯科外来は主に入院患者の診療を行っています。



独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院

〒982-8555
 宮城県仙台市太白区鉤取本町2丁目11-11
 ◎電話：022-245-2111(代表)
 ◎FAX：022-243-2530
 ◎URL：http://www.nishitagahosp.jp/
 地域医療連携室(直通)
 ◎電話：022-245-1810
 ◎FAX：022-245-1811

発行 行/仙台西多賀病院地域医療連携室
 発行責任者/地域医療連携室長 高橋 俊明

※仙台地下鉄を利用して来院される場合は八木山動物公園駅または長町南駅をご利用ください。
 ※東北道を利用して来院される場合は仙台南ICをご利用下さい。(東北道～山田ICまた、山田IC～東北道はご利用できません。)

